

令和6年度 加古川中学校 学校自己評価

1 学校教育目標 自分で考え行動する-自律・創造・尊重- ～笑顔あふれる学校 Smart Tough Heartful！～

2 本年度努力目標

- (1) 命を尊び、自他を大切に、いじめを許さない、豊かな人権意識をもつ生徒の育成
- (2) 生徒の学力向上を図るための学習指導の工夫・改善（ICT活用、スマート探究学習等）
- (3) 学校運営協議会及び加古川ユニット教育推進協議会による地域とともにある学校の充実
- (4) 学校組織力及び教職員の資質能力の向上

3 自己評価と改善の方策

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

努力項目	評価項目（具体的な実践目標）	達成状況	改善の方策
(1)「確かな学力」の育成	進んで学習に取り組む	B	ICTを活用した個別指導で興味を引き出し、主体的学習を促進する。課題解決型の学習活動や目標設定で動機付けを強化し、家庭との連携で家庭学習を支援していく。定期的に効果を評価し、フィードバックを活かしていく。
	基礎基本の定着	A	MEXCBTとICTツールを活用して個別学習の充実を図り、スパイラル学習を具体化する。協働学習を促進し、生徒同士の理解を深める。教師の専門性向上を通じて、効果的な指導法を共有し、基礎基本の定着を促進する。
	授業改善の工夫	A	授業力向上のため、公開授業や職員研修を通じた相互学習を強化し、ICTを活用した効果的な授業を展開する。生徒の主体性を引き出す工夫を凝らし、学びの質を高める教育環境を実現していく。
	思考力・判断力・表現力等の育成	B	ICTツールを活用した協働学習を積極的に取り入れる。生徒は探究を通じて自ら考え、意見を交換し合い、成果を発表することで、主体的で深い学びの実現を図る。
(2)「健やかな体」の育成	校舎内外の環境整備	A	校舎内外の安全性向上のため、定期点検で破損や危険箇所を早期発見し、優先順位を設けて計画的に修繕する。さらに、生徒には主体的に環境整備を行う意識を育む指導を行い、安心できる学びの場を築いていく。
	健康・安全を大切にする学校づくり	A	健康意識を高めるために、養護教諭と連携して保健だより等を活用し、積極的に情報を発信する。また、職員の実践力を向上させる職員研修を計画的に実施し、危機意識を持った行動を心がける。
	適正な部活指導	A	ガイドラインに従い、体力と技術の向上を目指すだけでなく、生徒の人権と人格を尊重した指導を実践し、自主性を育む指導を心がけることで、適正な部活動指導の実現を図る。
(3)「豊かな心」の育成	あいさつ・会釈を励行する	A	教職員が率先してあいさつを実践し、生徒の模範となることで、あいさつの重要性を示す。また、生徒会のあいさつ運動を支援し、より充実した活動にすることで、学校全体であいさつ文化を育てていく。
	清掃や片付け	B	教職員が模範となり、効果的な清掃方法と取り組み姿勢を生徒に指導する。生徒会の環境美化活動を活性化し、全員で協力して清潔で魅力ある学校環境を築くことを目指す。
	道徳心・人権意識の高揚	A	計画的な職員研修を通じて教職員の人権意識と指導力を向上していく。また、日常の学校生活で生徒の道徳心や人権意識を育むための活動を積極的に実施し、全体的な意識向上を図る。
	居心地の良い学級・学校づくり	A	生徒の状況を把握し、丁寧な指導と信頼関係を構築していく。状況に応じてMS、SC、SSWと連携し、迅速な対応を心掛け、安全で安心な学校・学級環境の整備に努める。
	生徒会活動の活性化	B	生徒会が校則見直しや約に基づき新たな取り組みを支援し、自主性を引き出す。さらに、いじめ防止を目的とした「こころの絆」活動を通じ、生徒間の信頼と協力を育む環境づくりを目指す。
(4) 生徒指導・特別支援教育の充実	時間を守る	B	時間を意識する行動を促進するため、教育活動を活用して体系的な指導を実施する。さらに、状況の把握に努め、家庭と緊密に連携して、時間管理の習慣を強化していく。
	服装を正す	A	校則変更を共有し、教職員が統一指導を行えるよう共通理解を図る。保護者と連携し、生徒が自己責任でルールを守るよう指導を強化していく。
	いじめを絶対に許さない集団づくり	A	「いじめ防止基本方針」に基づき、全教職員が正確な情報把握と積極的認知を行う。生徒会活動や人権学習を強化し、生活相談アンケートで早期発見に努め、迅速な対応を実現していく。
	教育相談の充実	A	職員研修でカウンセリングマインドを育成し、教職員の指導スキルの向上を図る。個々の生徒の内面理解を深め、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携したきめ細かな支援をしていく。
	特別な支援が必要な生徒への対応	A	個別的教育支援計画や指導計画を活用し、支援が必要な生徒に適切なサポートを行う。特別支援教育に対する理解を深めるため、教職員向けの研修を充実させ、全体の支援スキルの向上を図る。
(5) 開かれた学校	学校行事等の工夫	B	行事ごとの目的や効果を分析し、PDCAサイクルを活用して内容を具体的に改善していく。全職員が協力体制を強化し、全校生徒が主体的に参加できるよう工夫し、学校全体の一体感を高める。
	情報発信	B	学校通信やホームページ、スクリーン、39メールなどの連絡ツールを活用し、分かりやすくタイムリーな情報を発信する。これにより保護者・地域との連携を強化し、教育活動への理解と協力を促進していく。
(6) 特色ある取組	スマートスクール	B	スマートスクール推進委員会を軸に、今までの成果を活用して持続可能なICT活用法を研究をしていく。授業や業務の効率化を目指し、最新技術を導入した先進的な取り組みを積極的に推進する。
	SDGsスクール	C	SDGsの理解を深めるため、積極的な情報発信を行い、17目標を広く周知していく。総合学習の時間を活用して、生徒が自ら目標を決め、具体的な取り組みに挑戦する機会を増やす。
	勤務時間等の業務改善	C	ICTを活用して校務の効率化を図り、業務をチームで分担することで教職員の負担を減らしていく。タイムマネジメント研修を実施し、効率的な時間管理の方法を模索する。教職員が働き方に対する意識を変え、より効果的な業務遂行を可能にしていく。